

第23回対馬少年の主張大会最優秀作品

こきょう 誇りある故郷

久田中学校2年 小島 希々花



私は、日本国長崎県、対馬という離島で生まれました。この国の有史以前から続く長い歴史と、手つかずの自然が広がる、日本で3番目に大きな島です。

少しだけ故郷の自慢をさせていただくと、まずは、多数生存する絶滅危惧種の存在。ツシマヤマネコやツシマウラボシシジミ、クロアカコウモリや黄金オニユリなど、対馬にしか生息しない動植物がたくさんあります。また、全長915キロにもなる複雑な海岸線。浅茅湾と呼ばれる日本有数のリアス式海岸には、1,500年前の防人たちが作った城跡があり、その他には人工物が1つも見えない、太古の昔から、そのままの姿が残っています。また、この城跡は大陸との交流を物語り、対馬が外国に開かれていた場所だということを今に伝えています。

しかし、そんな魅力があるにも関わらず、対馬は過疎化への道まっしぐら。離島が不便であることは否めません。生活する中でもいろいろなことが制約されます。私も年頃の女子として、推しのコンサートにも行ってみたいし、遊園地やショッピングモールで楽しく買い物に迷ってみたい。そう思いますが、それはかないません。大学もないし、島を出るために、海を渡る必要があるため天候にも悩まされます。私の周りの大人も子供も、対馬の良さより、都会への憧れを口にする人が大半です。

確かに、対馬には遊園地も大きなショッピングモールもありません。ですがそれでも私は、この自然と歴史があふれる故郷を誇りに思っています。この島独自の魅力を、多くの人に知ってほしいと願っています。

古代から続く歴史と同様、今、対馬には隣国から多くの観光客が訪れ、時にはオーバーツーリズムという問題を起こしかねません。でも私は、外国の方々を含め、やってきてくれる人にはみんな「有り難いな」と感じています。だって、私の大好きな故郷にわざわざ来てくれたのですから。対馬は、何千年も外国との交流を止めずに乗り越えてきた島です。

日本が鎖国していた時代にも国交を開き続けたこの島独自の文化と、隣国の個性をお互いに理解しあって、人と人とのふれあいを、もっともっと広げていきたいと思っています。

中学生の今の私は、故郷を背負って立つ度量も勇氣もありません。ただの女の子にできることは何もないように思えます。それでも、今年、私たちの中学校の仲間が駅伝競走で県大会に進出し、「対馬」の名前を広めてくれました。都会の高校に進学した先輩が、夏休みに友達を連れて対馬の良さを語ってくれていました。私たち現代っ子は、簡単にSNSで発信することもできます。私たち自身が心から故郷を誇りに思っていれば、自分の出会う人たちに、その良さを伝えていける、私はそう思います。

あなたのふるさとはどこですか。そのふるさとにはどんな良さがありますか。あなたはふるさとを誇りに思っていますか。

私は、故郷・対馬が大好きです。

※原文のまま掲載

第23回対馬少年の主張大会結果

最優秀	久田中2年	小島 希々花
優 秀	比田勝中2年	扇 萌杏
優 良	東部中2年	宮本 真有
入 選	西部中2年	山田 乃々佳
入 選	雞知中2年	波多 蓮華
入 選	巖原中2年	長瀬 陽平
入 選	豊玉中2年	佐伯 総司
入 選	大船越中2年	勝木 奏太
入 選	仁田中2年	丸島 瑠姫
入 選	佐須奈中2年	小宮 璃心
入 選	豆酸中2年	浅田 優稀人

(敬称略)